

大宮西高等学校の関田でございます。埼玉県国際教育研究協議会会長として、一言ご挨拶申し上げます。

昨年度末に刊行された「埼玉県国際教育 第43号」にお寄せいただいた上田清司埼玉県知事の挨拶文に、「我が国が今後も成長していくためには、世界を舞台に活躍し、将来の埼玉そして日本を担う人材の育成が何にもまして急務です。」とありました。

そして「高等学校における国際教育は、グローバル人材育成の第一歩であり、多様な海外の人々との交流を通じて異文化に触れることは、グローバル人材としてのキャリアを築く上でとても貴重な経験です。」ともありました。

本日は、2校の高校生の皆さんにそれぞれの取組を発表してもらいますが、この発表がご参加の皆様にとって国際理解のための貴重な経験になることを祈念しております。

また、本協議会では、国際教育の重要な要素を「国際理解」と位置付け、これに関する各自の体験を発表する場として、外国人留学生による「日本語スピーチ」と、日本の高校生による「英語スピーチ」を実施してまいりました。この日本語・英語スピーチコンテストも今年で24回を数え、これまでに本県代表が全国大会に出場し、文部科学大臣賞や外務大臣賞を受賞するなど、輝かしい成果を上げてまいりました。

昨年度は、筑波大学附属坂戸高等学校の男子留学生と、不動岡高等学校の女子生徒が、関東甲信越静地区代表選考会で、そろって第3位という成績を修めることもできました。

本年度は、日本語スピーチに6名の外国人高校生の皆さん、英語スピーチに9名の日本人高校生の皆さんが出場します。出場者の皆さんには、この場にいらっしゃる全ての皆さんに、そのありったけの思いを届けていただきたいと思います。

先に紹介しました「埼玉県国際教育 第43号」の上田知事の挨拶には、こうもありました。「言葉をツールとしてだけではなく、真に実のあるものとして使いこなしていくには、多様な考えを持つ方々との交流や見知らぬ世界での経験を通じて、自ら鍛え、磨き上げていくことが欠かせません。若い世代の方々にはそうした機会に果敢に挑戦していただくとともに、我々にはその後方支援が求められています。本スピーチコンテストは、まさにその好例であり、異文化コミュニケーションへと若い世代の方々を誘う貴重な事業です。」

また、埼玉県教育委員会関根郁夫教育長からは、「スピーチコンテストでは、生徒が国際理解に関する体験や課題について主体的に発表することで、思考力、判断力、表現力の育成に大きく貢献し、国境を越えた生徒同士の絆づくりの貴重な機会となっており、埼玉教育への取組や貢献は、埼玉県の教育関係者にとって大きな誇りです。」との身に余る評価もいただいております。

本日の15名の出場者の皆さんのスピーチが、本日この場にいるすべての皆さんの心に届き、染みわたり、そのことがやがてさらなる国際理解の一助となることを願います。

本研究協議会は、この日本語・英語スピーチコンテストのみならず、埼玉県における国際教育の益々の振興のために、そして、今後の国際社会において大いに活躍し、よりよい社会の構築に貢献できる若者の育成を目指して取り組んでまいりますので、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。